

平成30年度（2018年度）採択プログラム 中間評価調書

卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名	東北大学		整理番号	1802
1.	プログラム名称	未来型医療創造卓越大学院プログラム		
	英語名称	Advanced Graduate Program for Future Medicine and Health Care		
2.	全体責任者 (学長)	<small>※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるもの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。</small> ふりがな おおの ひでお 氏名(職名) 大野 英男 (東北大学総長)		
3.	プログラム責任者	ふりがな やまぐち まさひろ 氏名(職名) 山口 昌弘 (東北大学副学長(教育改革・国際戦略担当))		
4.	プログラム コーディネーター	ふりがな なかやま けいこ 氏名(職名) 中山 啓子 (東北大学大学院医学系研究科 医科学専攻 教授)		
5.	設定する領域	最も重視する領域 【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域	
		関連する領域(1) 【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域	
		関連する領域(2) 【任意】		
		関連する領域(3) 【任意】		
6.	主要区分	最も関連の深い区分(大区分)	I	
		最も関連の深い区分(中区分)	52	内科学一般およびその関連分野
		最も関連の深い区分(小区分)	52010	内科学一般関連
		次に関連の深い区分(大区分)【任意】	I	
		次に関連の深い区分(中区分)【任意】	90	人間医工学およびその関連分野
		次に関連の深い区分(小区分)【任意】	90150	医療福祉工学関連
7.	授与する博士学位分野・名称	博士(医学、障害科学、看護学又は保健学)、博士(歯学)、博士(薬科学又は薬学)、博士(生命科学)、博士(情報科学)、博士(経済学又は経営学)、博士(文学)、博士(教育学)、博士(医工学)、博士(学術) 付記する名称: 未来型医療創造卓越大学院プログラム		
8.	学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医学系研究科・医科学専攻・障害科学専攻・保健学専攻・公衆衛生学専攻、歯学研究科・歯科学専攻、薬学研究科・医療薬学専攻・分子薬科学専攻・生命薬科学専攻、生命科学研究科・脳生命統御科学専攻・生態発生適応科学専攻・分子化学生物学専攻、情報科学研究科・応用情報科学専攻・情報基礎科学専攻・人間社会情報科学専攻、経済学研究科・経済経営学専攻、文学研究科・日本学専攻・広域文化学専攻・総合人間学専攻、教育学研究科・総合教育科学専攻、医工学研究科・医工学専攻		
9.	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入	10.	本プログラムによる学位授与数(年度当たり)の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。	
連合大学院		共同教育課程	15人	
11. 連携先機関名(他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)				
宮城県、みやぎ県南中核病院企業団、公立刈田総合病院、National Institutes of Health (USA)、National University of Singapore、University of Sydney、Tropical medicine, Philippines、Peking University、Norwegian University of Science and Technology、小野薬品工業株式会社、株式会社ジーシー、株式会社モリタ、株式会社トクヤマデンタル、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、株式会社フィリップス・ジャパン、株式会社島津製作所、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社NTTドコモ、株式会社ヤクルト、カゴメ株式会社、株式会社トブコン、鹿島建設株式会社技術研究所、Fracta, Inc、株式会社アルム、オリンパス株式会社、株式会社Clay Tech、大日本住友製薬株式会社				

(【1802】機関名: 東北大学 プログラム名称: 未来型医療創造卓越大学院プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧

※「年齢」は公表しません

番号	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
1	(プログラム責任者) 山口 昌弘	ヤマグチ マサヒロ		東北大学・副学長(教育改革・国際戦略担当)	理学博士	素粒子理論	プログラム責任者	1
2	プログラムコーディネーター 中山 啓子	ナカヤマ ケイコ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	博士(医学)	分子生物学・腫瘍学	プログラムコーディネーター・運営委員会委員長・研究開発担当	4
3	湯上 浩雄	ユカミ ヒロオ		東北大学・総長補佐、工学研究科長・教授	工学博士	エネルギーシステム工学	全学の大学院教育改革と連携強化	0.5
4	張替 秀郎	ハリガエ ヒデアオ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	血液・免疫病学	未来型医療創造教育研究センター副センター長 研究開発担当・がん対策	0.5
5	山内 正憲	ヤマウチ マサリ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	博士(医学)	麻酔科学	運営委員会委員・カリキュラム委員会委員長 研究開発担当・代謝病対策	1
6	永富 良一	ナガトミ リョウイチ		東北大学・医工学研究科・医工学専攻・研究科長・教授	博士(医学)	応用健康科学	キャリア形成支援室 システム・機器開発担当・フレイル対策	0.5
7	布施 昇男	フセ ノブオ		東北大学・東北メディカル・メガバンク機構・副機構長・教授	博士(医学)	ゲノム科学・眼科学	運営委員会委員・実習支援委員会委員 研究開発担当・代謝病対策	0.5
8	直江 清隆	ナエ キヨタカ		東北大学・文学研究科・総合人間学専攻・教授	博士(文学)理学修士	哲学	運営委員会委員・実習支援委員会委員 医療保健福祉行政担当	0.5
9	五十嵐 和彦	イハラン カズヒコ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	生化学・分子生物学	運営委員会委員副委員長 研究開発担当	2
10	片桐 秀樹	カタギリ ヒデアキ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	博士(医学)	代謝学・糖尿病学	カリキュラム委員 研究開発担当・代謝病対策	1
11	酒井 寿郎	サカイ シュロウ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	内分泌代謝・分子生理学・エピゲノム科学	QE・学位審査委員 研究開発担当・代謝病対策	2
12	宮田 敏男	ミヤタ トシオ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	創薬科学	企業連携室 医療保健福祉行政担当・代謝病対策	0.2
13	青木 正志	アオキ マサシ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	神経内科学・脳科学	運営委員会委員・カリキュラム委員会委員長 研究開発担当・認知症対策	0.5
14	正宗 淳	マサムネ アツシ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	博士(医学)	消化器内科	カリキュラム委員・プログラム教育開発室・研究開発担当・がん対策	1
15	富永 悌二	トミカガ テイジ		東北大学・大学病院、病院長(医学系研究科・医科学専攻)	医学博士	脳神経外科学	実習支援委員、システム・機器開発担当・認知症対策	0.3
16	中里 信和	ナカサト ノブカズ		東北大学・医学系研究科・障害科学専攻・教授	医学博士	てんかん学	国際連携室、システム・機器開発担当・認知症対策	1
17	鈴木 匡子	スズキ キョウコ		東北大学・医工学研究科・医工学専攻・教授	医学博士	神経心理学・脳科学・障害科学・神経内科学	広報室、研究開発担当・認知症対策	1
18	出江 紳一	イデミ シンイチ		東北大学・医工学研究科・医工学専攻・教授	博士(医学)	リハビリテーション医学	運営委員会委員・FD運営評価室長 システム・機器開発担当・認知症対策	1
19	高瀬 圭	タカセ ケイ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	放射線診断学	運営委員会委員・企業連携室長 システム・機器開発担当・がん対策	1
20	本間 経康	ホンマ ノリヤス		東北大学・医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)(工学)	知的医用工学	QE・学位審査委員・プログラム教育開発室、システム・機器開発担当・認知症対策	1
21	川島 隆太	カワシマ リュウタ		東北大学・加齢医学研究所、教授(医学系研究科・医科学専攻)	医学博士	認知脳科学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当・認知症対策	1
22	瀧 靖之	タキ ヤスユキ		東北大学・加齢医学研究所、教授(医学系研究科・医科学専攻)	博士(医学)	脳画像解析・画像疫学・認知症予防	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当・認知症対策	1
23	中澤 徹	ナカザワ トオル		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	眼科学	運営委員会委員・キャリア形成支援室長、システム・機器開発担当・代謝病対策	1
24	中川 敦寛	ナカガワ アツヒロ		東北大学・大学病院、臨床研究推進センター・特任教授	医学博士	脳神経外科学 バイオデザイン	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当・がん対策	1
25	押谷 仁	オシタニ ヒトシ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士・公衆衛生修士	ウイルス学	運営委員会委員・国際連携室長 医療保健福祉行政担当・感染症対策	1

(【1802】機関名:東北大学 プログラム名称:未来型医療創造卓越大学院プログラム)

【公表】

14. プログラム担当者一覧（続き）

	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポート(割合)
26	八重樫 伸生	ヤエガシ ノブオ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・研究科長・教授	医学博士	産婦人科学	実習支援委員 システム・機器開発担当・がん対策	1
27	海野 倫明	ウノ ミチアキ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	消化器外科学	カリキュラム委員 システム・機器開発担当・がん対策	1
28	石井 正	イシイ タカシ		東北大学・病院・総合地域医療教育支援部・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	医学博士	消化器外科学・総合医療学・災害医療学	実習支援委員 医療保健福祉行政担当・がん対策	1
29	辻 一郎	ツジ イチロウ		東北大学・医学系研究科・公衆衛生学専攻・教授	医学博士	公衆衛生学	実習支援委員 医療保健福祉行政担当・がん対策	2
30	小坂 健	オサカケン		東北大学・歯学研究科・歯科学専攻・教授	医学博士	社会医学	実習支援委員 医療保健福祉行政担当・認知症対策	1
31	栗山 進一	クリヤマ シンイチ		東北大学・災害科学国際研究所・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	博士(医学)	災害公衆衛生学 分子疫学	カリキュラム委員 医療保健福祉行政担当・認知症対策	1
32	寶澤 篤	ホウザワ アツシ		東北大学・東北メディカル・メガバンク機構・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	博士(医学)	個別化予防・疫学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当	0.5
33	山口 拓洋	ヤマグチ タクヒロ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	博士(保健学)	医学統計学 医学研究方法論	QE・学位審査委員 医療保健福祉行政担当・代謝病対策	0.2
34	中山 雅晴	ナカヤマ マサハル		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	医療情報	企業連携室 システム・機器開発担当・代謝病対策	0.5
35	浅井 篤	アサイ アツシ		東北大学・医学系研究科・公衆衛生学専攻・教授	医学博士、生命倫理学修士	医療倫理学・一般内科	広報室 医療保健福祉行政担当・認知症対策	2
36	大隅 典子	オオスミ ノリコ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	歯学博士	神経発生学	運営委員会委員・広報室長 研究開発担当・認知症対策	1
37	大和田 祐二	オウワタ ユウジ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	解剖学・神経科学	運営委員会委員・実習支援委員会委員長 研究開発担当・認知症対策	1.5
38	石井 直人	イシイ ナホト		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	博士(医学)	免疫学	運営委員会委員・QE・学位審査委員委員長 研究開発担当・感染症対策	2
39	青木 洋子	アキ ヨウコ		東北大学・医学系研究科・医科学専攻・教授	医学博士	分子遺伝学	FD運営評価室 研究開発担当・がん対策	1
40	小笠原 康悦	オガサワラ コウエツ		東北大学・加齢医学研究所・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	博士(歯学)	免疫学	カリキュラム委員 医療保健福祉行政担当・感染症対策	1
41	本橋 ほづみ	モトハシ ホヅミ		東北大学・加齢医学研究所・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	博士(医学)	生化学・分子生物学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当・代謝病対策	1
42	山本 雅之	ヤマモト マサユキ		東北大学・メディカル・メガバンク機構・機構長・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	医学博士	医化学	実習支援委員 医療保健福祉行政担当・がん対策	1
43	尾崎 章子	オザキ アキコ		東北大学・医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(看護学)	在宅看護学／睡眠学	実習支援委員 医療保健福祉行政担当・認知症対策	1
44	吉沢 豊子	ヨシザワ トヨコ		東北大学・医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(看護学)	ウィメンズヘルス看護学	QE・学位審査委員 研究開発担当・代謝病対策	2
45	高橋 信博	タカハシ ノブヒロ		東北大学・歯学研究科・歯科学専攻・研究科長・教授	歯学博士	口腔生化学	カリキュラム委員 研究開発担当・代謝病対策	1
46	佐々木 啓一	ササキ ケイイチ		東北大学・歯学研究科・歯科学専攻・教授	歯学博士	歯科学	企業連携室 システム・機器開発担当・感染症対策	1
47	平澤 典保	ヒラサワ ノリヤス		東北大学・薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士(薬学)	医療薬学	実習支援委員 研究開発担当・がん対策	2
48	眞野 成康	マノ ナリヤス		東北大学・薬学研究科・医療薬学専攻・教授	薬学博士	臨床化学	キャリア形成支援室 医療保健福祉行政担当・代謝病対策	1
49	岩淵 好治	イワブチ ヨシハル		東北大学・薬学研究科・分子薬科学専攻・教授	薬学博士	有機化学	広報室 研究開発担当・代謝病対策	1
50	加藤 幸成	カトウ ユキナリ		東北大学・未来科学技術共同研究センター・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	博士(医学) 博士(薬学)	抗体創薬	カリキュラム委員 医療保健福祉行政担当・がん対策	1
51	松沢 厚	マツザワ アツシ		東北大学・薬学研究科・生命薬科学専攻・教授	博士(薬学)	分子生物学・衛生化学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 研究開発担当・がん対策	1
52	筒井 健一郎	ツツイ ケンイチロウ		東北大学・生命科学研究所・脳生命統御科学専攻・教授	博士(心理学)	脳神経科学 (システム神経科学)	カリキュラム委員 システム・機器開発開発担当・認知症対策	1.5
53	河田 雅圭	カワタ マサト		東北大学・生命科学研究所・生態発生適応科学専攻・教授	農学博士	進化学	QE・学位審査委員 研究開発担当・認知症対策	1
54	有本 博一	アリモト ヒロカズ		東北大学・生命科学研究所・分子化学生物学専攻・教授	博士(理学)	ケミカルバイオロジー	キャリア形成支援室 研究開発担当・がん対策	1
55	木下 賢吾	キノシタ ケンゴ		東北大学・情報科学研究科・応用情報科学専攻・教授	博士(理学)	バイオインフォマティクス	カリキュラム委員 研究開発担当	1

(【1802】機関名：東北大学 プログラム名称：未来型医療創造卓越大学院プログラム)

【公表】

14. プログラム担当者一覧（続き）								
	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポート(割合)
56	大林 武	オオハヤシ タケ		東北大学・情報科学研究科・応用情報科学専攻・准教授	博士(理学)	計算生物学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 システム・機器開発開発担当	1
57	松宮 一道	マツミヤ カズミチ		東北大学・情報科学研究科・応用情報科学専攻・教授	博士(工学)	心理物理学	キャリア形成支援室 研究開発担当	0.5
58	瀬野 裕美	セノ ヒロミ		東北大学・情報科学研究科・情報基礎科学専攻・教授	理学博士	数理生物学	広報室 研究開発担当	1
59	和田 裕一	ワダ ユウイチ		東北大学・情報科学研究科・人間社会情報科学専攻・教授	博士(情報科学)	認知心理学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当	0.5
60	荻島 創一	オギシマ ソウイチ		東北大学・東北メディカルメガバンク機構・教授 (医学系研究科・医科学専攻)	博士(医学)	バイオインフォマティクス	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当	1
61	吉田 浩	ヨシダ ヒロシ		東北大学・経済学研究科・経済経営学専攻・教授	修士(経済学)	加齢経済	実習支援委員 医療保健福祉行政担当	1
62	若林 緑	ワカバヤシ ミドリ		東北大学・経済学研究科・経済経営学専攻・准教授	博士(経済学)	福祉経済、家族経済学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当	1
63	湯田 道生	ユダ マチオ		東北大学・経済学研究科・経済経営学専攻・准教授	博士(経済学)	医療経済学 応用計量経済学	FD運営評価室・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当	1
64	谷山 洋三	タニヤマ ヨウゾウ		東北大学・文学研究科・広域文化学専攻・教授	博士(文学)	臨床死生学	FD運営評価室・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当	1
65	若島 孔文	ワカシマ コウブン		東北大学・教育学研究科・総合教育科学専攻臨床心理学コース・教授	博士(教育学)	臨床心理学	FD運営評価室 医療保健福祉行政担当	1
66	吉田 沙蘭	ヨシダ サラン		東北大学・教育学研究科・総合教育科学専攻臨床心理学コース・准教授	博士(教育学)	臨床心理学	カリキュラム委員・プログラム教育開発室 医療保健福祉行政担当	0.5
67	高橋 達也	タカハシ タツヤ		宮城県保健福祉部次長(技術担当)	博士(医学) 修士(経済学)	行政/公衆衛生	カリキュラム委員 医療保健福祉行政担当	0.5
68	大内 憲明	オウチ ケンメイ		東北大学・医学系研究科・客員教授	医学博士	外科学	カリキュラム委員 医療保健福祉行政担当	0.5
69	下瀬川 徹	シモセガワ トオル		みやぎ県南中核病院企業団・企業長、東北大学名誉教授	医学博士	内科学/消化器病学	カリキュラム委員 医療保健福祉行政担当	1
70	大橋 洋一	オハシ ヨウイチ		公立刈田総合病院 院長	医学博士	外科学	実習支援委員 医療保健福祉行政担当	0.2
71	尾里 啓子	オノリ ケイコ		National Institutes of Health (USA)・NICHD Section on Molecular Genetics of Immunity・Senior Investigator	理学博士	免疫学・分子生物学	国際連携室 研究開発担当・感染症対策	0.2
72	伊藤 嘉明	イトウ ショウメイ		Cancer Science Institute of Singapore, National University of Singapore.	博士(医学)	Cancer research	国際連携室 研究開発担当・がん対策	0.2
73	Sascha Jenkins	サシャ ジェンキンス		University of Sydney, Faculty of Science, Manager	Ph. D.	Curriculum and Administration	FD運営評価室 研究開発担当・フレイル対策	0.5
74	Socopro Lupisan	ソコプロ ルピサン		Research Institute for tropical medicine, Philippines, Director,	M. D.	Infectious Diseases	国際連携室 研究開発担当・感染症対策	0.5
75	Jianmin Han	ジャンミン ハン		Peking University, CFDA Department of Biological Evaluation Associate Professor	博士(歯学)	Biological Safety and Effectivity Evaluation	国際連携室 研究開発担当・感染症対策	0.5
76	Menno Peter Witter	メノーピーターウィッター		Norwegian University of Science and Technology, Professor	Ph. D. (in Medicine)	神経解剖学・神経科学	国際連携室 研究開発担当・認知症対策	0.5
77	鈴木 秀博	スズキ ヒデヒロ		小野薬品工業株式会社 研究本部 研究渉外部・課長	博士(薬学)	脂質生化学/生体膜・創薬提携関連業務	企業連携室 研究開発担当・がん対策	0.2
78	熊谷 知弘	クマガイ トモヒロ		株式会社ジーシー・取締役・研究所・所長	学士(工学)	高分子化学	企業連携室 研究開発担当・感染症対策	1
79	辻本 範幸	ツジモト ノリユキ		株式会社モリタ学校本部学校開発部・部長	学士(経営)	経営、営業担当	企業連携室 研究開発担当・感染症対策	1
80	相澤 將之	アイザワ マサユキ		株式会社トクヤマデンタル・事業推進部・部長	博士(歯学)	化学、歯学	企業連携室 研究開発担当・感染症対策	1
81	池田 智	イケダ トモチ		キャンノンメディカルシステムズ株式会社 研究開発企画室 グループ長	工学修士	医療情報システム	企業連携室 研究開発担当・認知症対策	1
82	小原 真	オハラ マコト		株式会社フリップス・ジャパン DI ビジネスマーケティンググループ	工学博士	MRIクリニカルサイエンス	企業連携室 研究開発担当・がん対策	1

(【1802】機関名:東北大学 フォーム名称:未来型医療創造卓越大学院プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）								
	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	エフォート(割合)
83	佐々木 一郎	ササキ イチロウ		株式会社島津製作所 医用機器事業部 東北支店営業課 エリアマネージャ	学士(教養)	医療機関への 営業活動	企業連携室 研究開発担当・がん対策	0.5
84	宮川 健	ミヤカワ ケン		オムロンヘルスケア株式会社 技術開 発統轄部 学術開発部 基幹職	博士(医学)	運動生理学	企業連携室 研究開発担当・フレイル対策	0.5
85	池田 大造	イケダ ダイゾウ		株式会社NTTドコモ・先進技術研究 所・主幹研究員	工学博士	情報工学	企業連携室 研究開発担当・フレイル対策	1
86	長南 治	チョウナン オサム		株式会社ヤクルト本社中央研究所・ 研究管理センター・所長	農学博士	園芸学	企業連携室 研究開発担当・代謝病対策	0.4
87	鈴木 重徳	スズキ シゲノリ		カゴメ株式会社・自然健康研究部・ 課長	農学博士	食品機能学 食品表示学	企業連携室 研究開発担当・代謝病対策	0.5
88	秋葉 正博	アキハ マサヒロ		株式会社トプコン・R&D本部・R&D企画 部 上席部長	工学博士	生体医用工学	企業連携室 研究開発担当・認知症対策	0.5
89	権藤 尚	ゴンドウ タカシ		鹿島建設株式会社技術研究所建築環境 グループ 上席研究員	工学博士	建築環境	企業連携室 研究開発担当・認知症対策	1
90	加藤 崇	カトウ タカシ		Fracta, Inc ・CEO	経営学修士	AI解析	企業連携室 研究開発担当・代謝病対策	0.3
91	坂野 哲平	サカノ テツペイ		株式会社アルム・代表取締役社長	学士(理工学)	医療ICT	企業連携室 研究開発担当・フレイル対策	0.3
92	後野 和弘	ゴノ カズヒロ		オリンパス株式会社・イノベーション 推進 Vice President	博士(工学)	イノベーション 戦略	企業連携室 研究開発担当・がん対策	0.3
93	九頭龍 雄一郎	クサリリュウ イチロウ		株式会社Clay Tech・代表取締役	修士(工学)	IoT機器等開発	企業連携室 研究開発担当・代謝病対策	0.3
94	横田 京一	ヨコタ キョウイチ		大日本住友製薬株式会社・マーテック 戦略推進室長	学士(農学)	製薬企業にお けるデジタル トランス フォーメー ション	企業連携室 研究開発担当・認知症対策	0.3
95								
96								
97								
98								
99								
100								
101								
102								
103								
104								
105								
106								
107								
108								
109								
110								
111								

(【1802】機関名：東北大学 プログラム名称：未来型医療創造卓越大学院プログラム)

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項**【大学院改革のための具体的取組】**

東北大学では、学際・国際・産学共創に基づく高度なグローバル人材を育成する特徴ある学位プログラムの全学的展開を行う教育改革を強力に推進している。令和3年4月に「高等大学院機構」を設置し、これまでの学位プログラムの管理・運営に加え、本学の大学院改革の推進、大学院学生に対する共通教育、キャリア形成支援及び学修・研究専念環境整備に関する全学的な取組の企画立案及び調整等を行う「大学院改革推進センター」を置き、大学院改革を推進する体制が構築されている。

【プログラムに参加した企業による教育】

事業開始時に、アカデミアの教員に加え、16の企業と宮城県及び病院の関係者がプログラム担当者として参加し、企業、医療行政のノウハウを活かした人材育成能力を發揮することをお願いしていた。プログラム開始後、さらに多くの企業などに本プログラムの主旨を説明しプログラム生への教育の依頼を継続して行っている。その結果、令和2年度末で企業のリーダーなど学外を本務とする**47名（47企業）**が、プログラム生への講演・メンタリングなどに参加している。この数は申請時の目標数19企業の2.5倍であり、想定以上に産学連携が推進された。

学外講師には、複数名の学生を対象とした合同メンタリングに加え、令和2年度からは、個人メンタリングも行っている。個人メンタリングで、学生はメールベースで、研究・技術開発・修了後の進路などについて指導を受け、学生から高い評価を得ている。ファシリテーターによるコーチング、プログラムコーディネーターによる面談時にモニターし学生へのアドバイスをを行うと同時に、学外講師と学内講師との間で指導内容の共有と調整を行うことで、相乗的な教育効果を生んでいる。

その結果、学生は、本プログラムで学内外の多様なロールモデルに出会い自らの将来像を具体化しつつ研究活動を遂行している。個人の希望と適性に沿った進路選択をし、個人の能力を最大限發揮してアカデミアを含め様々なセクターのリーダーとして活躍すると期待される。

【Faculty Development の開発と実践】

本プログラムでは、知識や技能を教えることに加えて、学生自身が自らの目標達成に向けて主体的に行動を起こし継続して行動することを目指している。また、多様なバックグラウンドを持つ学生がチームを作り学ぶ場となる多職種連携教育を行っている。このような教育を効果的に実践できる教員を養成するために、コーチング技能研修を実施している。今年度までに11部局38名（第1期：18名、第2期：9名、第3期：11名）がこの研修を受けている。研修を受けた教員はファシリテーター教員として任命され、プログラム生への教育に強くコミットしている。令和2年度の研修は、集合研修（ファシリテーター全員での研修）を4回/年、グループ研修（1名のコーチによる3名のファシリテーターが参加）を5回/年行った。グループ研修ではコーチ役を第1期ファシリテーターが務めており、本プログラム内で**FD**の開発を進め、ファシリテーター教員の再生産が進んでいる。

プログラム生は、ファシリテーター教員がリードするグループセッションに参加し、研究・生活・就学・キャリア形成などについて話し合い、この学際的な学びの場を大いに活用している。

② 計画通り進んでいる事項**【ディシプリンの枠組を超える教育の実現】**

本プログラムでは、未来型医療創造に興味を持つ全ての学部を修了した学生を受け入れ、総合大学の強みを活かした文理融合・学際的な人材育成を行っている。具体的には、①医療系学生（医学部、歯学部、薬学部）、②医療系以外の学生（工学部、理学部、文系学部等）、③社会人（医療保健福祉職、行政職、研究教育職、企業研究職等）の修了生が参加している。プログラムに参加している学生の属性については今後も改善していくが、学生は本プログラムの主旨を理解し参加しており、十分な教育効果が得られている。

過去3年間の教育内容で、最も効果的であったと考えているものは、バックキャスト型研修である。真に未来の医療ニーズを想像することを目指し、近未来の我が国の人口年齢構成を再現する宮城県の地域病院（令和元年：気仙沼市立病院・公立刈田総合病院、令和2年：気仙沼市立病院、石

巻赤十字病院、大崎市民病院、令和3年：気仙沼市立病院、石巻赤十字病院)、生活情報とゲノム・オミックス情報を集積し解析している東北メディカルメガバンク機構、医療機器開発の拠点である東北大学病院 **CRIETO/ASU** の3拠点でのローテーション研修を実施した。所属と背景が異なる3名の学生で構成されるメンバー（バックキャスト型研修グループ）がグループ単位で研修を行っているが、各拠点には、オンサイトファシリテーターを配置し各サイトそれぞれで得られる特長的な研修を行うことができている。このグループは医学・歯学・薬学・生物学・経済学・文学など背景が異なる「多職種集団」であり、本研修を通して学際的な質の高いブレインストーミングを行いながら、学生自らが研究課題（ニーズ）の発掘方法や問題解決方法を学ぶ機会となっている。研修終了時のアンケート調査でも、ほぼすべての学生が満足と回答し、既存のカリキュラムでは学ぶことのできない発見や着想を持つことができたという意見が多かった。

③ 改善が必要な事項

【外部資金の獲得】

学外の機関、特に企業人と積極的なコミュニケーションをきっかけとして共同研究へ展開した例も出るなど、産業界とのネットワークは着実に深まってきており、本プログラムの活動についても、多くの企業人に興味を持っていただき、現在その人脈が広がりつつある。この成果をもとに今後外部資金の獲得を加速していけると考えている。具体的な資金獲得戦略としては、プログラム生が参加している研究の中から知財を獲得できるようなプロジェクトも推進することが挙げられる。これまでに東北大学病院の **Open Bed Lab** に参加している企業へプログラム生がサポートに入っている事例が出てきており、この制度を強化・体系化することを考えている。

【多様な学生の参画】

本プログラムでは、東北大学9研究科の学生を対象としているが、これまで情報科学研究科に所属する学生の参画がない。しかしながら、情報生物学や医学情報学の研究を行う学生のうち医学系研究科や医工学研究科などに進学した学生が本プログラムに参加しており、D/T/Sの3コースにバランスよく学生が配属できていることから、学生の興味・研究領域の多様性は十分に確保できていると考えている。今後、情報系の融合研究が活発に行われていることを、情報科学・情報処理研究を専門とする学生に的確に伝えることによって、情報系からみたこのプログラムの意義をさらにアピールし、情報科学研究科学生の獲得に繋げていきたい。

【社会人の受入れ】

研究成果の社会実装や実用化において、一般学生と企業関係者（社会人学生を含む）との交流が重要であると考えている。これまで、企業に在職しながらプログラム学生として参加する社会人学生の参加は3名に留まっているが、一方で、大学病院での研修などでは、企業から短期インターンシップとして病院で現場観察を行っている企業人とコミュニケーションする場を多数設けており、学生にとって学外講師によるメンタリングとともに社会実装・実用化を希求する原動力となっている。したがって、社会人学生数自体は多くはないが、事業開始時に社会人学生へ期待した効果は得られていると判断している。

④ プログラムとしての今後の見通し

【プログラムの継続性】

東北大学は、産学連携を進め民間共同研究収入を増加させるなどの財源の増加と多様化を図り、総長裁量経費を確保することで学生の支援を継続する。また、令和3年2月に採択された文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロウシップ創設事業」の一部を本プログラムの学生支援に活用していく計画である。

本プログラムでは、運営委員会、教務委員会に加え、ファシリテーターの参加など、専攻・研究科の枠を越えて運営を行っている。特にファシリテーター教員は、現在の職位が助教などの若手教員の中から文理共学に熱意を持つ教員を募っている。これらの教員が、将来にわたって東北大学における学際的教育体制の維持発展に貢献することが期待されている。本プログラムでは企業との連携を積極的に進めることにより、外部資金の獲得にも注力し、安定的なプログラム運営を目指す。

【PDCAサイクルの構築】

令和2年度には、企業・行政・地域病院・研究開発資金提供機関から外部評価委員を委嘱し、書面およびオンライン面接により外部評価を実施し、高い評価を受けた。今後も客観的な指標や外部からの評価を踏まえて課題解決に進んで取り組んでいく予定である。